

令和4年度全国簿記教育研究協議会（Web開催）

◇ 全商協会理事長 大林 誠 先生より ◇

- ・今回の協議会は、オンデマンドとして録画したものを会員校の先生方も見られるように公開する予定
- ・今後もWeb開催を継続していきたい

◇ 教科調査官 田中 圭 先生より ◇

- ・アメリカのOpenAI社が開発したチャットGPT…対話（質疑応答）ができるAI
 - ・「〇〇とは？」と質問すると答えが返ってくるシステム。財務諸表を貼り付けて分析までしてくれる。
 - ・授業で「〇〇とは」と教えるのではなく、それは予習で調べさせた上で、グループワークをさせるような授業に変わっていくのではないか。
 - ・帳簿の記帳方法を習熟させるよりは、企業が成長するための対策を考える時間が増える？
- ・企業が採用にあたって特に重視した点（アンケート調査より）→コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神。このような能力が身につく教育課程を考えていかなければいけない。けれど、“ビジネス・コミュニケーション”を設定している学校の割合は50%程度に留まっている。（商業教育の現状・課題 P.5 参照）“商品開発と流通”も設定率が低いのでせめて生徒が選択できるようにすべき。“管理会計”も同じ。公認会計士や税理士を目指す生徒のためにもせめて選択できるようにすべき。ビジネス社会で必要な資質能力が身につく教育課程にしてほしい。先生方が指導しやすい科目 or 検定に結びつく科目だけではなくて…

◇ 簿記教育研究協議 ◇

- ・各社の問題集の形式が異なっている → 試験問題は、現行の学習指導要領に基づいて問題を作成している
- ・英語表記で問われる単語について明記はしない？ → 出題する英語表記については各社の出版する教科書に沿って学習を進めていけば対応できるように出題する
- ・簿記実務検定試験アンケートについて → 要覧 P.3 通り。③県としてまとめてと言うのは、各校で意見の相違があっても、県としてまとめてから意見を全商協会へ提出するということ。

3級

- ・奨励級として、基礎基本と大切として、日頃の授業を大切にしていれば合格できるように出題
- ・3級の仕訳帳の勘定科目には（）つける？ → 教科書でも混在しているため、生徒の不利にならないように（）をつけるかつかないか問題では指示していない。またどちらでも正答とするような採点基準になっている。
- ・3は複式簿記の原理原則を理解できているかを問う問題。帳簿の記帳技術を問うだけの問題ではないので、今後も、総勘定元帳や各補助簿は略式（相手勘定科目を書かないなど）で出題する。
- ・範囲表に補助簿があるが、問題集に補助簿の問題が少ない → 補助簿に記載されている情報を読み解き、適切な処理を行うことを3級では問う。補助簿への記帳方法は2級で問う。
- ・精算表の出題について検討中。

2級

- ・割引発行でなく平価発行の問題が出題されていた◎ → 今後もマンネリ化を防ぐ問題を出題する
- ・4精算表の出題では、付記事項は設けずに、決算整理事項のみとする
- ・2級は個人企業を推定しての問題。6は株式会社に関する問題。教科書の発展問題にあるような内容。1級につながるように出題。今後、仕訳問題だけとは限らない。
- ・伝票の処理方法について…商品取引をいったんすべて掛けにするか、切り離して処理するか問題に明記する
- ・損益計算書と貸借対照表 両方の理解ができているか95回と同様5で問う

I 級会計

- ・可能な限りマンネリ化・パターン化しないように出題した

原価計算

- ・ 4 個別原価計算…部門別個別原価計算だけでなく単純個別原価計算も出題する。過去問題中心の指導×
- ・ 94 回 4 (4) 差異分析…今回は数値を提示したが、今後は取引から数値を読み取り解答する問題も出題する
- ・ 95 回 3 (4) 全部原価計算と直接原価計算に関する問題は、CVP 分析に偏らずに出題していく (P/L とか)

将来の運営・その他

- ・ 問題に表紙をつける…計算するスペースが増えるので**計算用紙は廃止**する R5 から?

誤答数調査 徳島県の本部校・・・調査員 4 名以上?で 400 枚?の答案用紙を調査する 案内送る?

◇新学習指導要領に対応した全商簿記実務検定試験について◇ (要覧…全国簿記教育研究協議会の資料)

- ・ I 級会計・原価計算は、第 97 回 R6.1 月より新検定に移行
- ・ 範囲表は要覧 P.36

<会計>

☆ I 級会計 新たに**追加**する分野 (会計処理)

サービス業会計 (役務収益・役務原価), 無形固定資産 (ソフトウェア), リース取引 (借り手の処理), 課税所得の計算, 税効果会計, 新株予約権の発行と権利行使, 外貨建換算会計

- ・ サンプル問題のように**一気に新しい論点を出すのではない**。徐々に出題予定 (要覧 P.40~)

☆連結財務諸表を資料として、財務諸表分析を行うサンプル問題を出していたが、教科書と対応していないので…当面の間、財務諸表**分析の問題は個別財務諸表**を資料として分析する問題とする。

☆**連結会計**に関する初歩的な問題を**従来と同様の難易度**で出題する (要覧 P.41)

<原価計算>

☆第 97 回から、**仕掛品**勘定 (製造勘定) とする。第 96 回は製造勘定 (仕掛品勘定)。

< 2 級 >

- ・ 出題範囲に「クレジット取引, 電子記録債権, 電子記録債務」を**追加**する

◇ R5 年度全国簿記競技大会について ◇

- ・ **R5.7.16 (日) 東京都日本大学法学部**で実施
- ・ 第 1 部 3 特殊仕訳帳は出題なし→帳簿問題に変更 一連の取引から関係帳簿に迅速に記録整理できるか問う
- ・ 第 2 部 5 ? 特殊商品売買の出題なし→計算問題に変更
- ・ 新学習指導要領に基づいて出題 「簿記, 財務会計 I, 原価計算」
例) 電子記録債権債務, リース取引, 外貨建取引, 税効果会計など…

◇ 事務局より ◇

- ・検定の申し込み人数を間違えないようにしてほしい。間違いが増加すれば、文科省の後援をいただけなくなる可能性が…公認会計士の監査でも、申し込み後の変更・返金を少なくするように指導されている。
全商協会に間違った金額で送金してしまった、試験場校経費？を差し引かずに送金してしまった等…
- ・(検定に関する冊子) 関係書類集 P.37 にあるように、障害のある生徒に対して、問題の拡大をするなどの特別措置は対応を相談する必要がある。受験申込手続きの前に全商協会に相談すること。
- ・検定のCBT化検討中。(資料1号参照)
- ・R6年度から、合格表記が変更になる。(資料2号参照)

令和6年度からの新合格表記

検定名	級合格		部門合格		科目合格
	そろばん ○級	電卓 ○級	○級 普通計算部門	○級 ビジネス計算部門	
簿記	○級		1級 会計部門	1級 原価計算部門	
ピ文	○級		○級 ビジネス文書部門	○級 速度部門	
英語	○級				
情処	ビジネス情報 1・2級	プログラミング 1・2級			
	3級				
商経	各科目 1・2級				○級 各科目
	ビジネス基礎 3級				
財務諸表分析	(合格)				
財務会計	(合格)				
管理会計	(合格)				
ビジコ	(合格)				

- ・商業経済検定試験規則等の変更について (資料4号参照)

1・2級の科目について

R5 「マーケティング、経済活動と法、ビジネス経済A、ビジネス経済B、ビジネス・マネジメント」

R6 「マーケティング、商品開発と流通、ビジネス法規、ビジネス・マネジメント」

- ・全商1級のカウントについて (資料7号参照)

財務諸表分析検定試験・財務会計検定試験、管理会計検定試験は1つで1級。しかし、3つ合格して1級3科目という風にはカウントしない。商業経済検定のような3検定試験合格者表彰の対象となるのみ。

- ・R6年度以降の第1級満点合格賞について (資料9号参照)

自動判定で行い表彰する

- ・R6年度以降の商業経済検定・会計実務検定全科目 (全検定) 取得者の表彰について (資料10号参照)

現在は卒業年度に表彰 → その賞を受賞することが確定した時点で表彰する ☆ 自動判定